

北信教育事務所だより



～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり・授業づくり～

令和5年2月17日 第7号

これからも力強く前進を

初任研『プログレス研修Ⅰ』 1/19 (木)
2年次研修『プログレス研修Ⅱ』 1/24 (火)

Progress (プログレス) には、『前進、進歩』などの意味があります。初任及び2年目の先生方が今後に向けて一步一步『前進』していくことを願い、「1年間の取組を振り返ることを通して、自分の成長を実感すること」をねらいとしてプログレス研修Ⅰ・Ⅱを実施しました。



初任研『プログレス研修Ⅰ』—研修会の振り返りより—

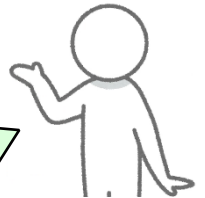
研修では、初任の先生方のお話を聞いたり、自分の実践を話し、アドバイスをもらったりする中で、「悩んでいるのは自分だけじゃなかったんだ」と毎回思うことができました。不安な気持ちで参加して前向きな気持ちで帰ってくるというのが、毎回の初任研でした。2年目も前向きな気持ちでがんばっていきたいと思います。



校内ではたくさんの先生方に授業を見せていただき、発見や学びがたくさんある一年でした。初任研でも、多くの先生方と出会い、たくさん意見を交流することができ、すてきな時間、学びの多い時間を経験することができました。2年目に向けて、子どもと共に考えを広げていくことを実践していきたいと考えています。たくさんの子供たちがいるけれど、一人もないがしろにしない、一人一人を大切にすることをいつも心にとめて、2年目に向かっていきたいと思います。

2年次研修『プログレス研修Ⅱ』—研修のまとめ記入用紙より—

いつかの研修で「他教科の先生方との発表・討議で思うように考えを共有したり深めたりすることができなかった」と記したことを覚えています。当時の私には視野を広げて学ぶ意識が欠けていたとふり返りました。どのように学ぶか、同一教科同士では見えてこない視点があるのではないかと、他教科から学ぶことが多くあろうと感じています。職員室で学年の先生方との情報交換が増え、日々勉強させていただいています。継続していきたいです。



今後は、担任としての日々を通して、新たな学びを得て、力をつけていきたいと思います。3年後のキャリアアップ研修Ⅰの時には、新たな初任の先生方の見本となれるように、また初任の先生の悩みを共に考え、共に学びあっている教師になりたいと思います。研修等にも進んで参加し、授業力や教師力に磨きをかけていきたいと思います。

研修から、どの先生方も子どもを第一に考える教師でありたいという思いを共通して持っていることが伝わってきました。また、初任の先生方が、新しい環境の中でひたむきに取り組んでいること、2年目の先生方からは、実践を重ね、今後は周りを支えられる存在として成長を続けていることが伺えました。



長野県教員育成指標では、経験1～5年程度の時期には、実践力を磨き、常に新たな視点を身に付けていくことが示されています。学校で先輩や同僚から学ぶ機会を充実していけるとよいですね。北信教育事務所としても様々な場で支援をしていきます。先生方の益々の活躍を期待しています！

<本号でお伝えする内容>

#…主な読者対象

	#…主な読者対象	頁
☆初任研1年次&2年次プログレス研修	#初任者 #初任研コーディネーター #全読者	①
☆第3回研究主任研修会	#研究主任 #全読者	②
☆道徳全体計画の見直し	#道徳科主任 #全読者	③
☆全国学力・学習状況調査をフル活用	#研究主任 #職員(算数・数学科、英語科) #全読者	④
☆生涯学習課より ～北信地区活動だより～	#全読者	⑧

子どもの視点からカリキュラムの評価と改善を行い、次年度の展望をひらく 第3回研究主任研修会

○研修1 実践発表

「カリキュラム・マネジメントを通じた研究推進—学校としての研究のまとめ—」

発表者：坂城町立坂城小学校 研究主任 山野井 美和 教諭

坂城小学校の実践のよさの一つに、**グランドデザインを基に、先生方が各自で子どもの姿から実践を振り返り、「何が身に付いたか」という観点で評価して、次年度につなげていること**が挙げられます。



坂城町立坂城小学校



【参加者の声】

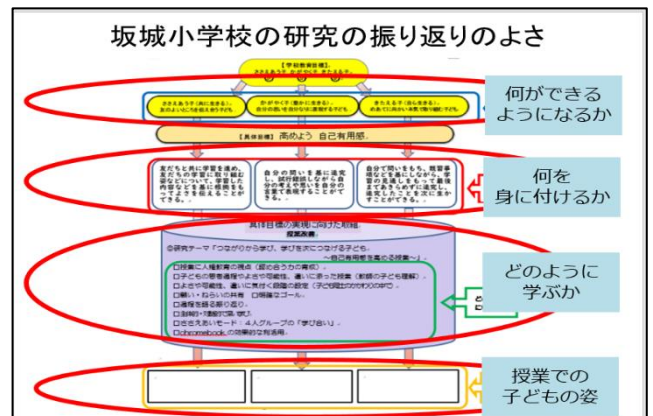
グランドデザインを通じた授業改善と振り返りという新たな視点を教えていただき大変参考になった。また、チームで授業づくりをしていくために研究主任がどのように意識して年間の活動をデザインしていくかについて具体例を通して学ぶことができた。

○研修2 演習（情報交換含む）

「育成を目指す資質・能力を子供の視点から考える、研究の振り返りと次年度の構想」

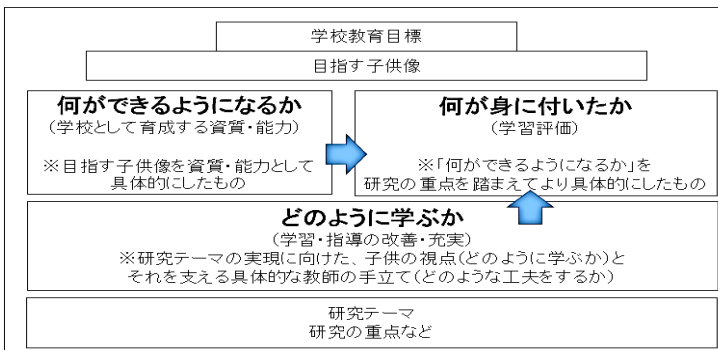
【坂城小：グランドデザインを基に作られた研究の振り返り図】

演習では、坂城小学校の研究の振り返りをヒントに、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」「何が身に付いたか」という視点をもって、自校のグランドデザインを見つめ、研究の振り返りと次年度の構想を演習シートに整理しました。



【演習シート】

育成を目指す資質・能力を子供の視点から考える、 研究の振り返りと次年度の構想



【参加者の声】

伝統や文化を重んじることは大切だけれど、今の学校現場や働き方に沿っていないことがまだまだたくさん残っているのだと痛感した。特に学校のグランドデザインを改めて見直したことでそう感じた。目の前の子どもを支えるために必要なことをきちんと盛り込んであるのか、年々ブラッシュアップをしていくことが求められると同時に、研究主任として改定に関わるべき責任があることも感じた。いつ、どこでできたのかわからないものでは、研究と結びつけるなんて到底できないし…。まずはシンプルに「目指すべき姿」「ゴールへ向かう方法」「どう振り返るのか(具体の姿)」の3つにシンプルに絞って整理していきたい。

(今年度は)授業改善の研修など、研修を行い「こんなことにチャレンジしましょう」という方向性は共有することができたが、振り返りをどう行かという課題があった。職員の意識もそろいやすいので、グランドデザインの見直しはとても良い方法だと思ったので、校長先生方と相談をしたい。

各校のカリキュラム・マネジメントの充実に向け、「何が身に付いたか」という子どもの視点から研究を振り返ることは、一つの大事なポイントになります。今回の内容をぜひ校内で共有していただき、そこから共に次年度の研究をひらいていきましょう。

先生方、1年間ありがとうございました。

道徳教育 全体計画 の見直ししませんか

☑ を参考に、道徳教育の全体計画を見直してみましよう

全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針と教育活動全体で行う道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画です。

作成に当たっては、校長の方針の下に、道徳教育推進教師が中心となり、全教員が参加、協力し、作成します。

☑ 道徳教育を通して育てたい子供像

まずは、校長先生の方針をお伺いし、育てたい児童生徒の姿を明確にし、道徳教育の**重点目標**の設定をしましょう。

☑ 道徳教育の**重点目標**

児童生徒や学校の実態、学校の特徴などを考慮し、どのような児童生徒を育てたいか、どのような心を育てたいかを明らかにします。その際、内容項目について、子供、保護者、地域、教職員にアンケートを取り、実態を把握することも考えられます。

☑ **重点内容項目**

道徳教育の重点目標に含まれる道徳的価値を明らかにし、重点内容項目を設定しましょう。

教育活動全体を通して全職員が意識できるように、内容項目を精選していきましょう。

機会と時期

教科横断的な視点で他の教育活動との関連を考慮し、指導時期などを整え、効果的な指導を計画しましょう。

☑ 道徳教育の全体計画 **別葉**

別葉には、道徳教育と各教科等との関連を考え、いつ、どのような機会に指導するのかを具体的に決めて示します。

- 各教科における道徳教育の指導の内容および時期が整理されている
- 道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できる

☑ **年間指導計画の工夫**

重点内容項目を設定することで

- 指導時間数を増やす。
- 一定の期間で繰り返し取り上げる
- 何回かに分けて指導する
- 一つの主題を2単位時間で扱う

など、重点的な指導になるように工夫することも考えられます。

道徳教育の全体計画に基づく道徳科の年間指導計画等を作成することで、計画的、発展的な指導へとつなげていきましょう。

こちらも参考になります

○道徳アシスト



- ・全体計画にもり込む内容とは
- ・別葉の形式や具体例は
- ・内容項目の一覧が見たい
- ・道徳教育の重点目標を具体化するために
- ・道徳科における評価の視点は
- ・授業科の授業づくりについて

○令和3年

北信教育事務所だより 7号



- ・見直しの具体的な進め方は
- ・全体計画見直しのポイントは
- ・重点内容項目を具体的に取り組むには

別葉や年間指導計画が自校ではどのように示されているか、確認してみましよう

全国学力・学習状況調査をフル活用！—第3回—

調査問題から日々の授業について考えてみませんか ~算数・数学、英語より~
算数・数学では、問題の分析を通して、「学年間での系統的な学習」について考えてみましょう。

2つの設問に共通していることは何でしょうか



小学校【算数】 3

3

6年生のまなみさんの学級では、みんながもっと仲良くなるために、お楽しみ会をすることにしました。

(1) まなみさんたちは学級で話し合い、お楽しみ会の遊びを、次の4つの中から2つ決めることにしました。

クイズ 宝探し しりとり ビンゴ

そこで、24人の学級全員にアンケート調査をし、希望する遊びを1人1人2つずつ選んでもらい、その結果を下の表にまとめています。

希望する遊び（お楽しみ会）					
遊び	ビンゴ	クイズ	宝探し	しりとり	合計
票の数（票）	17	13	12	ア	48

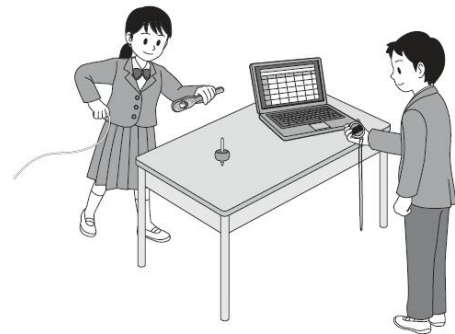
中学校【数学】 7

7

学級でコマ回し大会をします。この大会では、次の図のようなひもを引いて回すコマを使って一人1回コマを回し、最も長い時間コマを回した人を優勝とします。



大地さんと葉月さんは、コマAとコマBのうち、どちらのコマを使うかを検討することにしました。



この2つの設問の共通点は、
統計的な問題解決活動
に取り組んでいるということです。



小学校【算数】 3

統計的な問題解決活動

中学校【数学】 7

問題設定「学級のみんなが仲良くなるために、お楽しみ会でどの遊びをするか」

学級のみんなへの、お楽しみ会の遊びについてのアンケート**調査を計画**

1年生と6年生が希望する遊びについての**データを収集**し、表に整理

表から、選んだ人が多い遊びが「ビンゴ」と「クイズ」であることが**分かる**

遊びを「ビンゴ」と「クイズ」に**決める**

学級のみんなの希望が一つは通る決め方はないかな

希望する遊びの**データを並び替える**

「ビンゴ」と「宝探し」を選ぶことで、学級のみんなの希望が一つは通ることが**分かる**

お楽しみ会の遊びを「ビンゴ」と「宝探し」に**決める**

問題

計画

データ

分析

結論

考察

データ

分析

結論

問題設定「コマAとコマBではどちらのコマがより長い時間回るのか」

2つのコマを20回ずつ回し、それぞれのコマが回った時間の**調査を計画**

2つのコマが回った時間の**データを収集**し、表に整理

ヒストグラムの特徴から、それぞれのコマが回る時間の傾向が**分かる**

コマA(B)を**選ぶ**

(回す練習の後) コマを回す高さによって回る時間に違いがあるのではないかな

低・中・高のそれぞれの位置から20回ずつコマを回し位置ごとに**データを収集**

箱ひげ図の箱が示す区間から、それぞれの位置のコマが回る時間の傾向が**分かる**

コマはA(B)を選び、高さは中(高)位置で回すと**決める**

前頁から、どちらの問題解決活動も、**問題** **計画** **データ** **分析** **結論** という過程からなっていることがわかります。この過程を「統計的探究プロセス」と呼んでいます。ここで、統計的探究プロセスの学年間の学びの系統性を、学習指導要領解説の指導項目（思考・判断・表現力等）をもとに整理してみましょう。



プロセス	問題	計画	データ	分析	結論	考察	データ	分析	結論	
小学校	1年	データの個数に着目し、身の回りの事象の 特徴を捉える 。[簡単な絵や図]				低学年においては、「データ」「分析」を中心に扱い、中学年から、身近な題材から問題を設定する活動を、徐々に扱っていきます。				
	2年	データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて 考察する 。[簡単な表やグラフ]								
	3年	データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて 考察し、見いだしたことを表現する 。[表、棒グラフ]								
	4年	目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結果について 考察する 。[二次元の表、折れ線グラフ]								
	5年	目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について 多面的に捉え考察する 。[円グラフや帯グラフ、測定値の平均]								
	6年	目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について 批判的に考察する 。[代表値、ドットプロット、度数分布表、場合の数]								
中学校	1年	目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、 批判的に考察し判断する 。[ヒストグラム、相対度数]								
	2年	四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、 批判的に考察し判断する 。[四分位範囲、箱ひげ図]								
	3年	標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。簡単な場合について標本調査を行い、母集団の 傾向を推定し判断する 。[標本調査]								

このように整理してみると、小学校低学年から徐々に「統計的探究プロセス」が広がると共に、考察の仕方なども深まっていくことがわかります。系統性を意識しながら、**子どもの実態に合わせた統計的な問題解決活動を構想していくこと**で、9年間を通して子どもたちの資質・能力を育成していくことにつながることができると考えられます。



なるほど。小学校の低学年や中学年から、身の回りの事象を表やグラフに整理して、気が付いたことをみんなで語り合ったり、疑問に応じて、もう一度分析したりしていくことが、高学年や中学校の学習につながっていくのですね。



小学校高学年や中学校では、**新たに学習する表やグラフを既習のものとの比べることで、そのよさや必要性に気付くことができる**と考えられます。また、子どもたちが問題の解決に向けて、適切なグラフを選択して判断できるようにするためには、**既習の表やグラフなどの表し方を振り返って考えられるような、教師の支援が大切**です。



「統計的な問題解決」は様々な分野で用いられるようになってきており、他教科の学習でも用いることができます。小学校、中学校9年間の縦のつながりを意識すると共に、他教科でも「統計的な問題解決」を活用することで、より確かな資質・能力の育成につながることができそうですね。

英語では、令和元年度の問題から、コミュニケーションを図る資質・能力の育成のためのICTを活用した授業改善について考えていきます。

令和元年度「聞いて把握した内容について、やり取りすることができるかどうかをみる」問題

英語② 即興でやり取りをする

あなたは、ユイコとアラン先生と話しています。まず、ユイコとアラン先生が、2人で話している場面から始まります。そのあと、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、会話が続いていくように英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは始めます。

アラン先生が見せている写真



この問題は会話をする2人のやり取りに加わり、その場で考えて応じる場面でした。では生徒が自分の考えや気持ちなどを即興で表現できるようにするにはどんな言語活動を設定すればいいのでしょうか。ICT端末の有効的な活用をポイントにして授業づくりを考えてみましょう。



<問題の SCRIPT>

A: Look at this picture of my family.

This is my favorite picture.

Y: Nice! Who is she?

A: Oh, she is my mother, Nancy. And he is my brother, Tom. He can cook very well.

Y: I see. What kind of work does your mother do?

A: She is a teacher.

Do you have any other questions about them?

授業づくり例

会話を継続する力が習慣的に身に付くようにしましょう。

指導の重点を内容の伝達におきながら、活動中の言語使用について具体的に教師がフィードバックしたり、活動後に生徒が自分の使用した英語について振り返り、場面に応じた適切な表現方法を確認したりする機会を作ります。

■生徒はやり取りの様子をタブレット等に録音・録画をしてクラウド上に保存する。録音・録画したものの文字をおこし、適切な英語を互いに考え合う。

「メモ」などを活用しながら、伝える内容を整理し、伝え合う活動しましょう。

自分から事実や考え、気持ちなどを整理して伝えた後に、その内容に関する質問に適切に回答したり聞き返しをしたりしながら対話を継続させ、情報や考えなどを共有する場を設定します。

■クラウドの付箋アプリ等を使って、生徒はお互いのメモを共有し、聞き取りのヒントにしたり、質問するときの参考にしたりしながら即興でやり取りをする。

「聞くこと」や「読むこと」と「話すこと」を統合的に関連付けた活動しましょう。

聞いたり読んだりして得られた事実や情報をやり取りのきっかけとし、生徒が自分の経験などと結び付けたりしながら、言語活動を行います。

■クラウドの表計算アプリに、聞いたり読んだりした内容の概要や要点を入力する。それに基づいて考えたことなどを伝えた上で、考えを深めるために質問したり質問に答えたりする。

来年度実施される全国学力・学習状況調査「英語」は各校における授業改善の成果を確認できる絶好のチャンスです。

どんな調査？

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

※「話すこと」は抽出された当日実施校は4月18日に、それ以外の学校は4月19日～5月26日の文部科学省の指定する日に実施。当日実施校の結果から推定される全国値のみを公表。

ICT端末を活用し、文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）を用いたオンラインの音声録音方式で実施する。

資質・能力の育成につながる授業改善のために、長野県教育委員会のHPで公開している『中学校英語「指導と評価の一体化」テスト改善ハンドブック』の中にある、以下のチェックリストも活用してみたいはいかがでしょうか。

No	項目	チェック
1	学習指導要領で育成すべき資質・能力を高める授業をしようとしている。	
2	「生徒が〇〇できるようになってほしいな」とワクワクしながら単元構想をしている。	
3	単元構想をするときに、単元終末のゴールから逆算して言語活動や教材の扱い方を工夫するようにしている。	
4	自分が（教師）が解説や説明をしている授業ではなく、生徒が英語を使っておおむね言語活動を行っている授業をしている。	
5	自分（教師）は発話をおおむね英語で行っている授業をしている。	
6	生徒が活動をしているときに様子を観察し、英語が得意な生徒や苦手な生徒等、個に応じた指導をしている。	
7	「話すこと」【やり取り】の力を高めるためにSmall Talkなどの即興的な言語活動を普段の授業で実践している。	
8	テストを作るときに、育成すべき資質・能力を意識した問題を作ろうとしている。	
9	テストを作るときに、知識・技能をみる問題と思考・判断・表現をみる問題とのバランスを考えて作ろうとしている。	
10	指導と評価を一体化することで生徒の話す力や書く力を高めるために、パフォーマンステストを年3回以上実施している。	

<活用の仕方> 1～10の項目やセルフチェックを基に、今後、どんな授業を構想するのか、どんな資質・能力を育成し評価するのかなどを教科会で話し合ってみましょう。（お茶でも飲みながら）

学調の「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の問題も活用して、総合的にコミュニケーションを図る資質・能力の育成につなげていきましょう！

生涯学習かわら版

北信地区活動だより

～人づくり・つながりづくり・地域づくり～

令和5年2月9日

北信教育事務所生涯学習課 文責：指導主事 菅原 勇介

中野市立延徳小学校では令和4年9月から2時間目の後の休み時間に住民と児童が関わる場ができました。

延徳小



ボランティアルームの活用 ～未完の場の面白さ～

シニア大学での活動をきっかけに他校のボランティアルームの活用を知った地域の方から、延徳小でもやってみようという声が学校に寄せられ、ボランティアルームで休み時間に、学区内外の大人と児童が関わるようになりました。

そこに集う人が自由に变化させ学ぶことができる部屋



【紙風船や折り紙、紙飛行機で遊ぶ、地域の方と子どもたち】

延徳小学校のボランティアルーム

延徳小学校のボランティアルームは2階の端にあります。この場所は教室の前を通ってくる必要があるため、使用することに対して敷居が低くなれば、自然と子どもたちの様子を見たり、教室の前にある作品を見たりする機会が増えてきたりもします。今ある環境をどういかにするかによって、利点にもなる可能性がありますね。



【お茶を飲み、お菓子を食べながらふりかえりのおしゃべり】

- ・折り紙の作品とかどうやって勉強しているんですか？ 私も折り紙を教えてください。
- ・子どもたちが自分の気持ちに素直に自由に活動ができるといいと思うのですが、私たち自身も学んでいきたいですね。いろいろなものづくり方もですが、子どもとの関わり方なども学びたいですね。
- ・(参加者同士で)〇〇学校ではどんなふうに活動をしているのか教えてください。(参加者同士が視野を広げる)
- ・今は遊びが中心ですが、もう少し活動を広げるのもいいですね。これからまず第1・第3金曜日にやっていきましょう。
- ・今日作ったものや、家で作ってきたものを、長机に展示して帰りましょう。



延徳小学校のボランティアルームに行ってみて、参加する方が楽しく学ぼうとしていることが印象的でした。参加者は学区の人だけでなく、お友達も来ていたことから、この日に初めて会うという方もいました。このように大人の横のつながりが広がる場にもなっています。そして、作品を飾るなど、参加者の学びの成果を共有したり参加者自身が部屋をデザインできるようになっています。学校の敷居を低くするヒントがあるかもしれませんね。

コミュニティスクールの研修や実践事例の紹介などをします。お気軽に連絡してください。ぜひ視察にも行かせてください。

■■お問い合わせ先■■

北信教育事務所生涯学習課 〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1 担当：菅原勇介

Tel:026-234-9552 E-mail: hokushinkyo@pref.nagano.lg.jp

